

農業委員会だより

第12号

発行日：令和3年3月1日
発行：大町市農業委員会
編集：農業委員会だより
編集委員会
大町市大町3887
TEL 22-0420

OMACHI

大町市



常盤・須沼の一本桜

エドヒガンザクラ（4月上旬～中旬に開花）という種類で、田打ち桜とも呼ばれ、農作業の目安となる役目を果たしてきた桜です。鹿島槍や爺ヶ岳を背景に独り立つ姿は風情があります。

農業委員会だより 第12号掲載内容

人・農地プランの実質化に向けて	農業委員 小林 稔
農が育む人の輪	農業委員 中村 勝彦
中山間地の水田農業	農業委員 大日方 宗仁
コロナ禍での農業経営	農業委員 平出 亨
農地利用状況調査について	農地利用最適化推進委員 犬飼 正明
大町市借馬在住の玉城健と申します	借馬 玉城 健
ブドウ栽培の始まり	大原町 福嶋葡萄研究所

人・農地プランの 実質化に向けて

農業委員 小林 稔



美麻地区農業者との話し合い

美麻の二重地区は、平成26年に策定した、「人・農地プラン」を基に、令和2年度に同地区の水田の約85%を、農地中間管理機構を介し、担い手に集約することができました。

昨年度当初より、同地区を含めた美麻各地区の農業者の代表との話し合いを何回か開催し、大塩・青具・千見地区が、「人・農地プラン」を策定することになりました。

農家からのアンケートを集約する中で、現在の農業者、地権者が5年後、10年後の美麻の農業、そして農地について、どのように考えているか知ることができました。また、美麻地区の農地は昭和50年代後

半に区画整備されてはいますが、未整備の水田や山間地に点在している畑をいかにして守っていくかなど、課題が多くあります。

今後、「人・農地プラン」の実質化に取り組んでいくため、農業者、地権者と担い手との話し合い場を多く設けていく必要があると考えます。

農が育む人の輪

農業委員 中村 勝彦



生産組合による栗

あれは何歳の頃であっただろうか。田起こしをしている馬方さんに頼み込んで農耕馬の背に乗せてもらったことが、いまだに忘れられない。馬が疲れると渋られたことも。

農耕牛馬の姿が消えて久しいが、農作物の栽培を通じて

「人の輪」が広がっていく姿は時代が変わっても常に不変であると感じている。

農業委員経験者を中心に栗の生産組合ができて5年程になります。転作田を活用した栗の植栽に苦戦しながらも会員の輪はますます大きくなってきています。

また、大町市社会福祉協議会には、綿花を栽培し、コットンフラワーを楽しむサークルがあります。綿の木の栽培に試行錯誤していますが、経験者の蓄積を求めて人の輪が広がっています。

多くの農作物は年に一回しか栽培できない時間的制約があります。この解決策を求めて人の輪が広がっていきまます。農業が育む「人の輪」が咲き誇る風景に期待をしています。

中山間地の水田農業

農業委員 大日方 宗仁

中山間地の八坂地区の水田は、傾斜地に小規模面積で棚田という条件の悪い中で長年耕作をしてきましたが、平成

元13年に掛けて地域で圃場整備を行い、用水の少ない地域では、貯水槽、パイプライ

ン、自動給水栓施設の整備を併せて行いました。

整備により各圃場面積が拡大し、作業の省力化のため、乗用田植え機、コンバインなども完備した「八坂営農組合」を設立。大北農業協同組合が事務局を担当し、収穫期のオペレーター等は、近年の人手不足から地元建設業者の支援を得て、今日でも地区の水田農業の大きな支えとなっています。

水田耕作者の高齢化は年々進み、後継者不足に加え、鳥獣被害の増加などにより、令和2年度産水稻営農計画では、水田耕作業者が耕作面積は表1で表した数字となっています。

作付面積別状況は表2のとおりで、他地区に比べ1戸当たりの面積は大変小規模です。

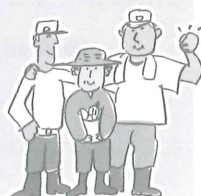
転作面積のうち自己保全管理は29戸4.4ha、地域で増加防止に取り組ん

表1 水田耕作者の状況

水田耕作者		92戸	
うち自家消費農家	自家消費農家率	うち出荷農家	出荷農家率
30戸	32.6%	62戸	67.4%

表2 水田作付面積状況表 (作付面積)

面積	戸数	構成比
10a以下	20戸	21.7%
10~20a	20戸	21.7%
20~30a	24戸	26.1%
30~40a	12戸	13.0%
40~80a	14戸	15.2%
100~120a	2戸	2.3%
計	92戸	



ではいます。担い手となる農家がなく、水田の集約化も進まないなど、後継者不足が影響して年々増加してしまい、作付面積を現状維持できるところが課題です。

今後、高齢化が進む中、水田の集約化の検討を進めていくとともに、中山間地域直接支払事業などによる地域の支え合いはもとより、八坂営農組合が中心となつて中山間地の水田農業を担うことに更に期待を寄せているところで

「コロナ禍での農業経営」

農業委員 平出 亨

令和元年末から報道がされ始めた新型コロナウイルス感染症。令和3年2月現在も終息の兆しは見えていません。

今後の世の中は、産業構造の変化とともに、人々の生活様式も大きく様変わりしていくものと予想します。

農業界においても既に多くの場面で影響が発生しており、農業経営に携わる者としては、現状を正しく認識して情報を整理し、対策を講じて経営者としてのあり方や目指す経営ビジョンを見直す時期にあると思います。

私の経営の主となる作物は「米」であり、令和2年度は、気候変動による収穫量の減少、新型コロナウイルスの影響等により消費減退し、販売単価が下落して売り上げが減少しました。

令和3年度の米政策は、在庫過剰のため、政府が提供する全国の需給見直しにおける主食用米の生産量は693万tと史上初めて700万tを割り、需給と価格の安定を図る

ため最大規模な作付転換が必要な状況となっております。

米政策見直しから3年が経過し、今後も人口減少に伴うマーケットの縮小、農業従事者の減少、高齢化の進行、自然災害の頻発、新型コロナウイルスの影響等、我々農業者だけでは解決できない課題が山積みです。

令和3年度の米政策について政府は、さまざまな課題に対して支援をしていくとしています。私たちもこれらの情報を整理し、国、地方公共団体、JAなど全ての関係機関と情報を共有し、政府の支援策を最大限活用し安心して生産活動に取り組みたいと思います。

無断転用は農地法違反です！

農地を住宅等建物の敷地、資材置場、駐車場など、農地以外の用途に利用する場合は、一時的なものも含め許可が必要です。違反すると罰せられる場合があります。詳しくは、農業委員会にお問い合わせください。

農地利用状況調査について

農地利用最適化推進委員

犬飼 正明



農地パトロールの様子

農業委員、農地利用最適化推進委員には、必須業務として農地法第30条に基づき、農地利用の確認、遊休農地の実態把握、違反転用の発生防止を目的とした農地パトロール

(利用状況調査)を8～11月に実施しています。航空写真を基に、市内全域の登録されている農地を一筆ごとに現況調査をします。面積の小さい畑などは場所が分からず手間が掛かりますが、調査結果は農地情報公開システムにより公開されます。

大町市は平地、中山間地、市街地等多岐にわたります。担当する市街地では、工場と新たに開発された大型商業施

設の間に残された集約化が難しい農地が荒廃化しない心配です。また、太陽光発電施設の近隣であっても家庭菜園を耕作してほしいと願います。

農地の権利移動に関わる現地調査では、申請者が次の段階に進むためにも大事な確認作業となり、担当区域では、住宅建設等の農地転用の申請が多いことから、現地で申請内容と近隣農地や住民に支障をきたさないか確認し、当委員会総会で審議のための情報を報告しています。

今後も遊休農地、農地無断使用等の発生防止のため現地に出向き農地の調査をしていきたいと思っています。

結婚相談

農業委員会では、結婚相談を行っています。

毎月第2、4土曜日の午後1時から総合福祉センターで、女性の専門相談員がお話を聞き、ご希望の条件に合う方を紹介。マッチングすればお見合いを設定しています。

秘密は厳守、無料ですのでお気軽にご相談下さい。

農業者年金

安心で豊かな老後のため、
農業者年金に加入しませんか！

老後の備えは
万全ですか？

農業者年金は、次の要件を満たす方はどなたでも加入できます。
・60歳未満の方・年間60日以上農業に従事・国民年金第一号被保険者
※詳しくは市農業委員会事務局にお気軽にお問い合わせください。

大町市借馬在住の玉城健と申します

借馬 玉城 健



9年前に東京都日野市から結婚を機に大町市に移住し、現在3・5haの水稲を栽培しています。

「栽培した作物を、1人でも多くの人に食べてもらいたい」という気持ちから、平成30年8月に、平・借馬に「和食織是」というお店を開業しました。開店2年目である昨年度には、年間約1万人にご来店いただき、ご飯を食べていただく機会を持ってました。

お店でお米を販売していることもあり、年々自己販売比率も高まってきました。「食」の魅力や、農業から消費者の口が届くまで責任を持って行うことによって、安心して食

を楽しんでいただけることを目指しています。

一方で、地域農家の高齢化による離農や、若手農家の減少等、大町市の広大な農地をこれから5年後、10年後どう維持していくのかという危機感を抱いています。持続可能な農業を営んでいくためにも、利益を出す農業を常に意識しながら取り組んでいます。

金額の高い農業機械が、各農家の負担となっていて、近隣の若手農家と共同の設備利用等を模索し、利益の出る農業を今後展開していきたいと考えています。それにより、新規に農業を始めたい人がこの地域に増え、農地の保全に役立てばと思います。

観光業が大きな産業であるこの地域で、農地の保全や食の多様性を維持することは、大変重要だと思います。産産を横断し、山・川・農地とこの地域の自然環境を包括的に保全していくことによつて、より魅力的な地域がつくれると思っていますので、農業委員会と若手農家とで協力しながら、この地域のために尽力していければと思います。

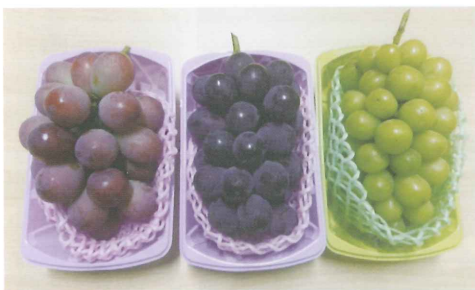
ブドウ栽培の始まり

大原町 福嶋葡萄研究所

20年前にサラリーマンを辞め、専業農家だった家業を手伝い主に水稲栽培(数十ha)を行ってききましたが近年は、水稲栽培へ国の補助制度もなくなり、米価も下降傾向です。

水稲栽培は一時しか使用しない田植え機、コンバイン、乾燥機等総額で数千万円。メンテナンスは年100万円単位です。減価償却が終わる頃には、新しい機械の購入となるため水稲栽培の農業所得では割に合わず、機械貧乏の自転車操業です。

若い頃から水稲栽培の手伝いをしてきましたが実際の数



クイーン ニーナ ピオーネ シャイン マスカット

字が見えて来ると「このままでいいの？同じ事の繰り返し」。毎年、田植えの準備時期になると頭に浮かび、機械類も替え時の物が多数あることから、そろそろ行動を起こさねばと感じていました。

転作して生食ブドウを栽培しようと思ったのが、5年前に食した「種無しブドウのシャインマスカット」で、あまりにも高価で衝撃的なマスカット香でした。ブドウで種無しを色々調べてみると他の品種でも種無しが可能で、更においしいとのことで興味を覚えました。

長野県の中信エリアでブドウといえば塩尻なので、現地に出向きブドウ農家を回り話を聞かせていただきました。ほとんどの農家が栽培は適した気象条件であるかどうか。土壌pHは、苦土石灰等で変えることは可能だが、気象はどうにもならない。塩尻エリアでも、近年は、温暖化のため、少し影響が出て栽培方法も変わってきているとのことでありました。私の現状である稲作の話をする、親しみを感ずてもらえ、皆さん熱心に色々な事を教えてください

非常にありがたかったです。ブドウ栽培の研究、栽培の決め手になったのが「大町なら、気温の寒暖差があるからブドウ栽培の適地だろう。」この瞬間がブドウ栽培のきっかけとなり5年前のブドウ修業の始まりでした。

編集後記

まだまだ寒い日が続きますが陽射しはだんだん暖かくなってきました。第23期大町市農業委員会による最後の「農業委員だより」の発刊です。

皆さんに、私たちの行っている仕事や現在の置かれている農業環境等についてできるだけ分かりやすくお伝えするように努力して参りましたがいかがだったでしょうか。

また、忙しい農作業シーズが始まります。そして、第24期大町市農業委員会もスタートします。大町市の農業生産者の皆さんを少しでもお手伝いできる農業委員会であるように努力していきたいと思えます。

ありがとうございました。

(編集委員 鷹巣 夕子)